



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## 認定審査に対する基本的な考え方

災害救助犬の認定は犬の能力だけに焦点が当たりがちですが、過去の教訓、現実の課題からは指導手、チームの能力が問われていると考えています。

そのためには社会の要請、期待に応えられる災害救助犬、指導手を育成、輩出することが認定審査会を主催する私たち責務だと考えています。

人命救助ために組織していることを踏まえ、その求められる犬、指導手の能力、チームの能力の一定基準として必要な作業の錬度を確保するために実践を見据えた認定審査を目指しています。

犬を現場で安全に、確実に作業させるのは指導手の能力次第です。そして状況判断、チーム活動への認識、救助隊との連携等々、実働の認定は犬だけではなく指導手が現場で求められる能力は多岐にわたり、当然、審査対象とするべきことです。

一方、実働を目指し、その過程にある犬、指導手らに、実働とは異なる活動の場を広げるために実働可能な認定に至る前段階として、防災訓練、広報デモの分野において経験値を増すために活動できる広報活動も重要な役割と位置づけていますが、しかし、社会から見れば同じ災害救助犬であり、実働はしないが、広報活動において社会の期待を欺かない災害救助犬の基礎能力を備えていることが条件としています。

また、緊急事態に対応できる体制づくりのためには、日常的な犬の能力向上だけに偏らず、それに応じた指導手の能力、意識向上も求められているため、基礎訓練と災害実働の狭間にある認定審査は訓練、出動等と密接に関連性をもって制度構成しています。

出動対応を見据えた認定審査会、災害救助犬の社会的な認知向上とする認定審査会の趣旨を鑑み、それぞれ認定後における認定レベルの維持チェックは訓練会において行い、努力、向上心を怠らないように訓練会への参加を義務化しています。

また、人命にかかわる活動に携わる以上、認定制度は厳しい社会、行政、救助隊からの要請に応えるために自己規律として客観的社会性を保たなければなりません。

災害救助犬の認定が国家レベルの認定となり活動できることを目指し、災害救助犬組織間への統一認定制度構築アプローチも含め、真に役に立てる災害救助犬の目的を忘れず自己改革を怠らないように努力し続けます。

NPO 法人として実働のための災害救助犬、指導手を輩出すること、認定が目的とならないこと、内部の論理を優先しないこと、対外的に合理的説明できる認定制度であるとともに、併せて災害救助犬が注目を浴びる反面、災害救助犬の能力、特性を無視したパフォーマンス行動から批判を受けることもあり、常に社会とともに歩んでいく立場を忘れず、公の活動段階では非難されないように自覚して行動していかなければならないと思っています。

私たちだけの自己満足の内向きな認定審査会や組織にならないように心掛け、認定審査に限らず、NPOとして社会の方々の多様な意見を謙虚に受け止め、社会貢献のために必要な自己改革を続けていくつもりです。